

資料渉猟余話

その112

松下壽男さんを通じて、長三郎さんと一緒に持ち山の手入

便局に勤務する健司さんが協力してくれ

駄目元でも行ってみようという事になった。当日朝急遽、高森町の民俗学研究

家の橋都正さんも加

を嘸みそな作業道に無理やり登り、小林家持ち山まで登る。その軽トラも捨て、山仕事の運搬機に荷物を移し替え、徒歩で方向への根通

山上の神殿、その後の調査

嶋 不濁

り(木曾義仲の腰掛石へ通じる道)を長

三郎さんの作業する金山様まで作業道をたどった。

金山様にお詣りを済ませ、長三郎さん

57年に今の山を入り、山の手入れをしてきたのだという。金山様にお神酒を供えながら、私たちが探している宮之本神社らしきものを最後に見たのは、もう40年も前のこと、その時は以前あって宿泊煮炊きもできた「別荘」も朽ち果て

いたという。金山様から等高線づたいに作業道の踏み跡を西にたどる。小林家の持ち山を越えたときに踏み跡が怪しくなり、ガレ

場、倒木が続いた。直線距離にしたなら200メートルと長三郎さんは言ったが、



右奥に「齋田」の立札が見える 昭和14年頃



奥の院にお神酒を供える小林長三郎翁

30分近く歩いた頃、人工的な切石を置いた階段や石組みが見えると、矢場と磐座の

(つづく)